

『本山 御正忌報恩講オンライン参拝』は…。

長崎教区仏教壮年会連盟理事長 園田祥隆

その主旨は、『間違っていなかった』。と、思うのだが…。参拝日の1月15日(金)に「長崎教堂」へ来た参拝者は、何と、何と私一人。主旨は『インターネット環境が整備されておらず、自宅等で視聴することができない方々をはじめ、一人でも多くの方に「本山 御正忌報恩講法要」のご縁に遇っていただく……』。というもの。オンライン参拝開催を昨年12月18(金)に長崎教区仏教壮年会連盟理事会において、長崎教区事務局に提案。了承を得て、開催日を1月15日(金)、開催場所は、「長崎教堂 本堂」とした。時期が悪かった…。ここにきて新型コロナウイルス感染拡大の勢いは急加速。11都府県に「緊急事態宣言」が発出され、さらに1月16日には長崎市内に県独自の緊急事態宣言が発令された。「巣ごもり生活」の再来だ。「本山」では現況に鑑み参拝の受付が中止され、法要の様子が見られるのは「インターネット中継」のみ。「本願寺のホームページ」を見ると、『ご自宅等でご参拝ください』とある。

I T化、例えばオンライン会議等は、ますます推進されていくだろう。しかし、インターネット接続環境が整備されていない人たちもいるということを決して忘れてはならない。I T化の促進とセットで考える必要があろう。「本山」へ行く体力がないとか、インターネットが出来ない、Wi-Fiを設置していない、そうした人たちのためにも、また、門信徒減を回避するためにも、教務所や所属寺院へ行けば、インターネット配信動画が見られる環境整備は急務であろう。今回の「オンライン参拝」の結果はかんばしくなかったが、この試みは、ウィズコロナ、アフターコロナ時代の「伝わる伝道」の第一歩と確信している。

ウィズコロナ、アフターコロナ時代へと移り、我々の生活は大きく変化しつつある。それにより宗派も大変革の時代を迎えようとしている。その変化に対応できるか、否かが、これからの課題であろう。「仏教壮年会」は多種多様な職種、職業、幅広い年齢の方々と構成されている。まさに知恵の宝庫と言えようか。その知恵を出し合い、汗を出す。これぞ「仏教壮年会」。

「諸行無常」。「無常」とは「変化」なり…。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏……。〈釋 仰願〉